

海外研修レポート

The 2nd Asia-Pacific Society for Physical Activity (ASPAs) Conference に参加して

藤井悠也¹⁾

■はじめに

2022年11月28～29日にオーストラリア・メルボルンで開催された第2回アジア太平洋身体活動学会 (Asia-Pacific Society for Physical Activity (ASPAs) Conference) に参加し、研究成果を発表した。本レポートでは、今回の学会参加によって得られた成果等について報告する。

■大会概要

ASPAs は、アジア太平洋地域の身体活動に関する研究を集約し、知見の普及と実践を目指す学会である。まだ創設間もない学会であり、今回の学会大会が第2回 (現地開催は初) であった。今大会はメルボルンの Deakin University で行われた。大会はキーノートレクチャーから始まり、身体活動に関する数多くのセッションに加え、Special Interest Group (SIG) と呼ばれる学会内の小組織からの報告が行われた。

■大会の雰囲気

ASPAs はまだ創設間もないこともあり、50名ほど収容する会場が2か所のみと、比較的小規模な学会であったが、学会の密度自体は非常に濃いものとなっていた。特に本大会では、身体活動の普及と実装に関する研究発表が非常に多く、さまざまな介入の実装に関する報告を聞くことができた。

また、小規模な学会の利点は、発表者とコミュニケーションが取りやすいという点である。今回の学会でも、身体活動の普及についてキーノートレクチャーで講演をした McKay 先生にすぐに話を聞きに行き、情報交換をすることができた。参加者の出身は、開催国のオーストラリアやニュージーランドが多かった印象だが、日本からも10名程度参加していた。今後は、日本の学会ともつながりを作っていくという話もあるため、更なる盛り上がり期待される。



会場入口で荒尾名誉所長と



学会の様子

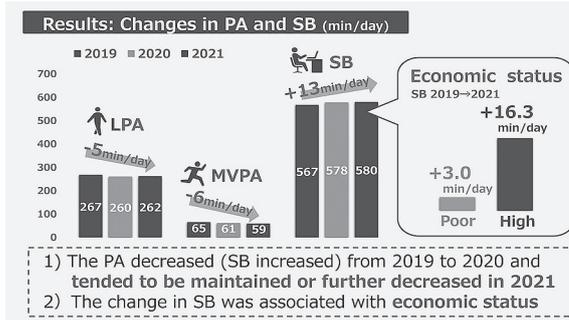
1) 公益財団法人 明治安田厚生事業団体力医学研究所 Physical Fitness Research Institute, Meiji Yasuda Life Foundation of Health and Welfare, Tokyo, Japan.

ASPA Conference 2022
28-29 November, 2022

Changes in physical activity and sedentary behavior of workers from before to during the COVID-19 outbreak and its correlates

Yuva Fujii^a, Naruki Kitano^a, Yuko Kai^b, Takashi Jindo^{a,b}, Takashi Arai^a
^a Physical Fitness Research Institute, Meiji Yasuda Life Foundation of Health and Welfare, Japan
^b Faculty of Health and Sports Science, University of Tsukuba, Japan

Introduction
 The lockdown greatly affected the physical activity (PA) and sedentary behavior (SB) in workers.
 What are the long-term effects of the mild measures in Japan?



研究発表内容

■研究発表

今大会では、“Changes in physical activity and sedentary behavior of workers from before to during the COVID-19 outbreak and its correlates”について e-poster 形式で発表した。この研究では、コロナ禍前後での勤労者の身体活動について、加速度計を用いた3地点の縦断調査によって明らかにした。本研究結果から、勤労者の身体活動促進は、コロナ禍以前にも増して早急に解決すべき課題となったことが示された。今後はいかに勤労者の身体活動を促進していくかがカギになるため、今大会で職域での介入研究についてさまざまな報告を聞いたことは大きな収穫であった。

■おわりに

日本の学会ではまだまだ少ない社会実装型の研究が、本大会では非常に多く報告されていた。特にその傾向は、本大会の最初のキーノートレクチャーが、「いかに普及研究をおこなうか」というテーマであったことにも代表されており、社会実装研究においては世界に1歩2歩先をいかれていることを痛感した。一方で、当研究所が現在進めている社会実装型の研究も世界の潮流に乗っていることを改めて確信できた。引き続き、国際的な動向を注視しながら、着実かつ大胆に研究を進めていき、世界に追い付け追い越せの精神で取り組みたい。

また、国際学会の現地参加は、COVID-19の影響などもあり、実に3年ぶりであった。やはり、オンライン学会では感じられない熱量を肌で感じる事ができ、今後の研究のモチベーションになった。今後も積極的に参加し、そこで得た知見やモチベーションを還元していきたい。

なお次回の ASPA 学会はニュージーランド・ウェリントンにて2023年11月27～28日に開催される。



次回大会のアナウンス